

# 看護での外国人労働者受け入れについて

松岡 緑

## 医療現場の現状

看護師をめぐる医療現場の現状と課題、あわせて外国人労働者の受け入れについて私見を述べてみたい。

医療技術の進歩、平均在院日数の短縮化、患者の高齢化・重症化等により、看護師の役割は複雑化し、業務密度も高まりその社会的責任は、ますます重くなっている。特に、高齢者に対しては身体機能の低下を踏まえた緻密な観察と生活援助、

ときには精神機能の低下を認識し、患者の人権を尊重しながら抑制の回避など適切な看護を提供しなければならぬ。在院日数の短縮化は、頻繁な入退院に伴う看護業務も増加させている。さらに、操作や用法を間違えれば患者の生命に危険を及ぼしかねない医療機器や医薬品については、患者名・量・時間等を確認し誤りなく与薬し、経過の緻密な観察も要求される。

個々の看護職員の勤務状態は、複数の患者を同時に受け持ち、限られた時間の中で業務の優先度を考えながら、多重な課題に対応しなければなら



九州大学医学部保健学科で成人看護学を担当しています。教育と医学の会の一員となってもう22年となります。この間、社会の変化に伴い看護学教育はすいぶん変化してきました。看護に必要な習得すべき三つの能力は態度、知識、実践能力です。これらを学生に習得させるために日夜頑張っています。

ない。また、ルーチン業務を遂行する間にも、緊急の業務による中断がある等、複雑な状況に即応できる能力も求められる。

国民に安全な医療を提供し、看護の質を確保、向上させるため看護職者は細心の努力を払っているが、それでも医療事故は起こっている。

現在、各病院では看護職者にヒヤリ・ハット(医療事故にまで至っていないが、医療事故寸前のヒヤリとし、ハットと気付いたこと)の報告をさせているが、平成十六年二月二十五日より平成十六年五月二十四日まで「医療事故防止のためのヒヤリ・ハット事例等の分析に関する研究」研究班の報告によれば、参加登録施設二四九施設中、報告施設八四施設で結果は次のとおりであった。

- ①与薬(点滴・注射・輸血)に関する事例(二二・一%)
- ②与薬(内服・外用、麻薬)に関する事例(二七・五%)
- ③転倒・転落、抑制に関する事例(二五・二%)
- ④チューブ・カテーテル類に関する事例(一八・二%)
- ⑤検査に関する事例(九・六%)
- ⑥食事、栄養に関する事例(四・四%)
- ⑦器機および器機操作に関する事例(二・三%)

このように死亡事故には至らないまでも致死的な事故につながる事例等が提示されている。

## 外国人看護師導入の課題

平成十六年十一月三十日、産経新聞は、「日比FITA最終合意。看護師など受け入れ。初の労働市場開放」という見出しで、日本とフィリピン間の自由貿易協定(FITA)の最終合意を報じた。

(前略)日本のFITA締結はシンガポール、メキシコに次ぐ三番目。看護師の受け入れなど人の移動も含んだ幅広い協定は初めてで、東南アジア諸国連合(ASEAN)とFITA締結に向け、追い風となりそうだ。労働市場の開放では、看護師や

介護福祉の資格を持つフィリピン人について、日本での国家資格取得準備のために看護師三年、介護福祉士四年をそれぞれ上限とする就労ビザを発給。資格取得者は引き続き就労を認める。ただ、受け入れ人数は今後協議する」と報道している。では、外国人看護師を日本で採用した場合、医療現場ではどのようなことが課題となるか考えてみよう。

1. 前述のように医療現場では細かな注意を払っていても医療事故やヒヤリ ハット事例が起こっている。安全でゆきとどいた看護を提供するためには、患者や医師をはじめとする医療チームスタッフとの密接なコミュニケーションが必要不可欠である。日本語による円滑な意思疎通とともに、日本人を看護ケアするためには日本文化や生活習慣、社会生活への習熟が求められる。

2. フィリピンなど外国人労働者の受け入れ拡大を求めている国々の事情をみると、大きな経済格差・所得差の下で、個人の海外出稼ぎは、同時にその送金が国の経済の支えになっている側

面がある。しかし、看護師等の海外流出で国内では深刻な看護師等の不足が発生している実態がある。

外国人看護師を受け入れるとしたら、単純労働者とは異なり、コミュニケーション能力など一定の条件をクリアした看護師を受け入れる必要がある。例として、アメリカで看護師として働く場合の条件を紹介する。

「アメリカで看護師として働くためには、就業したい州の看護師免許 (National Council Licensure Examination for Registered Nurse/NCLEX-RN) を取得しなければならぬ。NCLEX-RNは各州の看護評議員会 (State Board of Nursing) によって実施されるが、アメリカ以外の国の看護師が受験する場合、八割以上の州では、NCLEX-RNの受験条件として、外国看護学校卒業生審議会 (The Commission on Graduates of Foreign Nursing School/CGFNS) の合格認定証の取得を掲げている」(日本看護協会ホームページ「アメリカ看護師免許取得までの準備と手続き」<http://www.nurse.or.jp/kokusai/overseas/workinusa.html>より)

日本でも外国人看護師が日本で看護師として働くためには、①患者や医療チーム員とのコミュニケーションを円滑にするため、日本語によるスムーズな意思疎通と、日本の文化や社会への基本的理解ができていること、②日本の看護師国家試験に合格していることが必須条件である。

フィリピンなどから外国人看護師を受け入れる場合には、安易に受け入れ拡大するのではなく、日本国民に対して安全な医療、しかも質の高いケアや国民のQOL向上がはかられる医療施策の中に位置づけなくてはならない。

また、人材を送り出す側の東南アジア諸国が、看護師等の流出によって、かえって保健衛生をめぐめる環境を悪化させる恐れもある。このことも考慮する必要がある。

●松岡緑(まつおか みどり)

九州大学医学部保健学科看護学専攻教授。博士(経営学)。専門は、成人看護学、精神看護学。九州大学医学部附属看護学校卒業。九州産業大学大学院経営学研究科博士課程単位取得退学。著書に『エクセルナース⑭「検査編」』(メデイカルレビュー社、二〇〇四年)、『看護過程―精神障害者のケア(第二版)』(廣川書店、二〇〇〇年)など。

現代人の心の支援シリーズ

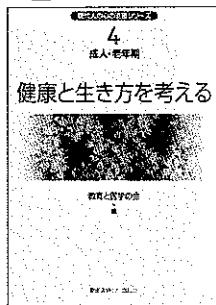
第4巻 成人・老年期

# 健康と生き方を考える

編集責任：松岡 緑・川崎晃一・丸山孝一

人生の質を高め、アクティブに生きるためには、加齢による、からだ・こころ・社会的な変化とその特性を理解し、適応するための準備が必要です。自分に適した健康設計、生活設計、人生設計について、具体的に提示します。全25編の論考を収録。

- 第1章 中高年者の健康づくりと生き方
- 第2章 生活の中のストレスとその対処の仕方
- 第3章 生活習慣病をめぐって
- 第4章 高齢者介護のあり方
- 第5章 家族の中のジェンダー



四六判・360頁  
2940円(本体価格2800円)

慶應義塾大学出版会

〒108-8346 東京都港区三田2-19-30  
TEL 03-3451-3584 <http://www.keio-up.co.jp>